



大阪本社

- 本社所在地：大阪府大阪市中央区瓦町4丁目3-7 VORT御堂筋本町 503
- 事業概要：販売・リース事業・燃料輸送事業・油化事業・不動産事業など
- 常時使用する従業員：11名
(2024年5月時点)
- 現在の売上高：14億円（2024年5月期）
- 法人番号：6120001244017
- Web：https://srhd.jp

企業理念・100億宣言に向けた経営者メッセージ



代表取締役社長
廣田 耕一

create better societies for one's future generations.
-自分たちの未来の世代のために、より良い社会を築く

当社は限られた小さな土地で二次資源を利用した発電を行い、緊急避難場所での利用価値や、工場などに隣接させ発電所で発生した熱を効率的に利用できないかと考え、脱炭素化へ注力しながら、発電所に関わる建設・製造・運送・買電でカウントされるCO2抑制を踏まえた考察が従来の脱炭素化への対策であるべきではないかなど、模索を行ってまいりました。その結果、土地仕入・建設・メンテナンス・燃料供給・売電・燃料販売までの全てを行うことで、脱炭素発電所開発事業が実現でき社会貢献が可能になりました。私たちはこれからも持続可能な未来を見据え、地域社会と共に成長し続ける企業であり続けます。100億円の売上目標達成に向け、全社一丸となって挑戦してまいります。

売上高100億円実現の目標と課題

実現目標

2034年の売上高100億円達成に向け、年平均成長率25%以上を維持。電力コストの高騰や供給不安への対応として、蓄電池事業のアグリゲーションによる需給調整で電力単価の平準化を図るとともに、自社製油所の導入により国内産業向けに安定かつ低コストな燃料供給体制を構築。エネルギーの自立と地域経済の持続性を実現。これらの取り組みを通じて、環境負荷の低減と脱炭素社会の実現にも貢献。

課題

- 1.電気代の高騰**
電力会社からの電気代は高騰しており、企業にとって大きな負担となっている。
- 2.災害による停電の増加**
災害による停電リスクが高まっており、事業継続への不安が高まっている。
- 3.環境問題**
企業はCO2排出量削減への取り組みが求められる。

売上高100億円実現に向けた具体的措置

目指す成長手段

- 1.蓄電池事業の強化**
電力市場での売電収入に加え、国が定める基準価格と市場価格の差額をプレミアムとして受領。蓄電池により時間的アービトラージで追加収益を獲得。
- 2.自社製油所の導入**
これまで市場から調達していた廃食用油や再生重油を、廃油から自社で精製。粗利の計算式は「販売価格 - 製油調達価格」から「販売価格 - 廃油価格 + 精製コスト」へと変化し、利益率向上が見込める。

実施体制

- 1.蓄電池事業の強化**
アグリゲーターとの連携によるリスク分散を進めつつ、太陽光発電所1,990kW+蓄電池8,332kWhを併設。発電+蓄電で需給調整に対応。
- 2.自社製油所の導入**
大手航空会社と提携を進める。同社のバイオマス発電所および自家発電所に精製された油を供給。外部業者にも販売。

100億円売上目標に向けた既存事業における今後の戦略

1. 廃食用油バイオマス発電事業

世界的に珍しい廃食用油を用いた発電機を設計し、大手国産メーカーである北越工業株式会社のOEM製品を使用して発電所の設計から販売までを手掛けています。JAPAN BIOMASS POWER※が開発した廃食用油バイオマス発電機【B800P】を利用しています。この事業の燃料は、グリストラップなどで収集された汚泥（廃食用油）をマテリアルリサイクルによって精製したものです。カーボンニュートラルな発電を実現し、生成された電力を電力会社に卸売りしています。

※JAPAN BIOMASS POWER：二次資源ホールディングス株式会社の前身企業

2. 再生重油自家発電機の設計・販売

当社の自家発電システムは、ゴミ資源から作られる再生重油を燃料として利用します。再生重油の年間生成可能量（約612万トン）は、日本の重油発電の年間燃料消費量（約50万トン）を大きく上回っており、燃料価格の安定やエネルギー自給率の向上といったメリットも期待されています。電力の発生と同時に発生する廃熱を冷却・加温・冷水・温水・蒸気などの熱エネルギー製造プロセスに利用することで、エネルギー効率を高め、補助金申請の要件を満たすことも可能です。

3. バイオマス発電所・自家発電所のO&M業務、燃料販売

バイオマス発電所および自家発電所向けに、10～20年の長期にわたるO&M（運用・保守）業務と燃料供給契約を提供しています。これは、同社にとって安定した「サブスク収益」の重要な柱です。O&M業務は、発電設備の安全性と効率を確保するため、日常・定期点検、発電機器・配管・制御システムなどの設備メンテナンス、最適な発電効率を維持する運転管理まで幅広く対応しています。

4. グリーン・イナーシャ事業

本事業は太陽光発電など再生可能エネルギー増加に伴う電力系統の安定性維持に貢献します。非化石燃料（地域の廃棄物から生成した再生重油）を用いた同期発電機が回転することで生じる「慣性力」を電力系統に供給し、電力ロスを低減する仕組みです。廃棄物燃料活用による資源循環、太陽光発電の不安定性を補う共存モデルとして持続可能性を確保します。



バイオマス発電機【B800P】



自社製油所(建設中)

